

3. 2005年度の業績見通し(連結・単独)

当第1四半期においては、国内のIT投資の回復はまだら模様であり力強さに欠けましたが、国内の携帯電話関連および北米向けの光伝送システムなどの所要前進、HDDの堅調な所要、ものづくりの強化などによるコストダウンの推進や営業費用の効率化などにより、計画を上回る利益を計上することが出来ました。また、昨年度まで業績不振の続いていたソリューション/SI事業では依然として国内需要は回復途上にあるものの、受注・売上の前倒し努力、不採算プロジェクトの発生を抑止する仕組みの整備などを通じてようやく収益力の安定的な回復が見込まれる状況になりました。また、営業利益の改善に加えて、円安による為替差益の発生等営業外損益の好転、HDDの不具合に関する訴訟の和解金を特別利益に計上したことなどにより、経常利益、当期純利益ともに計画を大きく上回りました。

当社は今後とも絶え間のない市場の変化を先導すべく、昨年実施した営業とSEの一体化の組織体制をさらに発展させ、新たなフィールド・イノベーションを実現することによりお客様に常に最適のソリューションを提供してまいります。また、グローバルな競争に勝ち抜くために、最先端のテクノロジーを基盤にコスト効率を徹底的に追求してまいります。

この結果、中間期においては、一部製品の所要増とコストダウンなどの前倒しの影響、業績の平準化への努力などにより、4月公表の計画を増額修正いたしました。しかしながら通期においては、下期において、半導体市況の回復に遅れが見込まれることに加え、IT市場の所要に不確実な要素が大きいため、年初からの変更はありません。

[連結]

(単位：億円)

	中間期			通 期		
	2004年度	2005年度	増減率	2004年度	2005年度	増減率
売上高	22,200	22,000	▲ 0.9%	47,627	48,500	1.8%
営業利益	332	300	▲ 9.9%	1,601	1,750	9.2%
経常利益	40	▲ 50	-	890	1,000	12.3%
当期純利益	▲ 81	▲ 150	-	319	500	56.7%

[単独]

(単位：億円)

	中間期			通 期		
	2004年度	2005年度	増減率	2004年度	2005年度	増減率
売上高	12,957	12,650	▲ 2.4%	28,462	28,300	▲ 0.6%
営業利益	▲ 236	▲ 200	-	306	450	46.9%
経常利益	▲ 258	-	-	316	400	26.5%
当期純利益	▲ 121	150	-	▲ 398	300	-

この資料に記載した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます(但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません)

- ・ 主要市場における景気動向(特に日本、北米、欧州)
- ・ ハイテク市場における変動性(特に半導体、パソコン、携帯電話など)
- ・ 為替動向、金利変動
- ・ 資本市場の動向
- ・ 価格競争の激化
- ・ 技術開発競争による市場ポジションの変化
- ・ 部品調達環境の変化
- ・ 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- ・ 不採算プロジェクト発生の可能性
- ・ 会計方針の変更